

山房

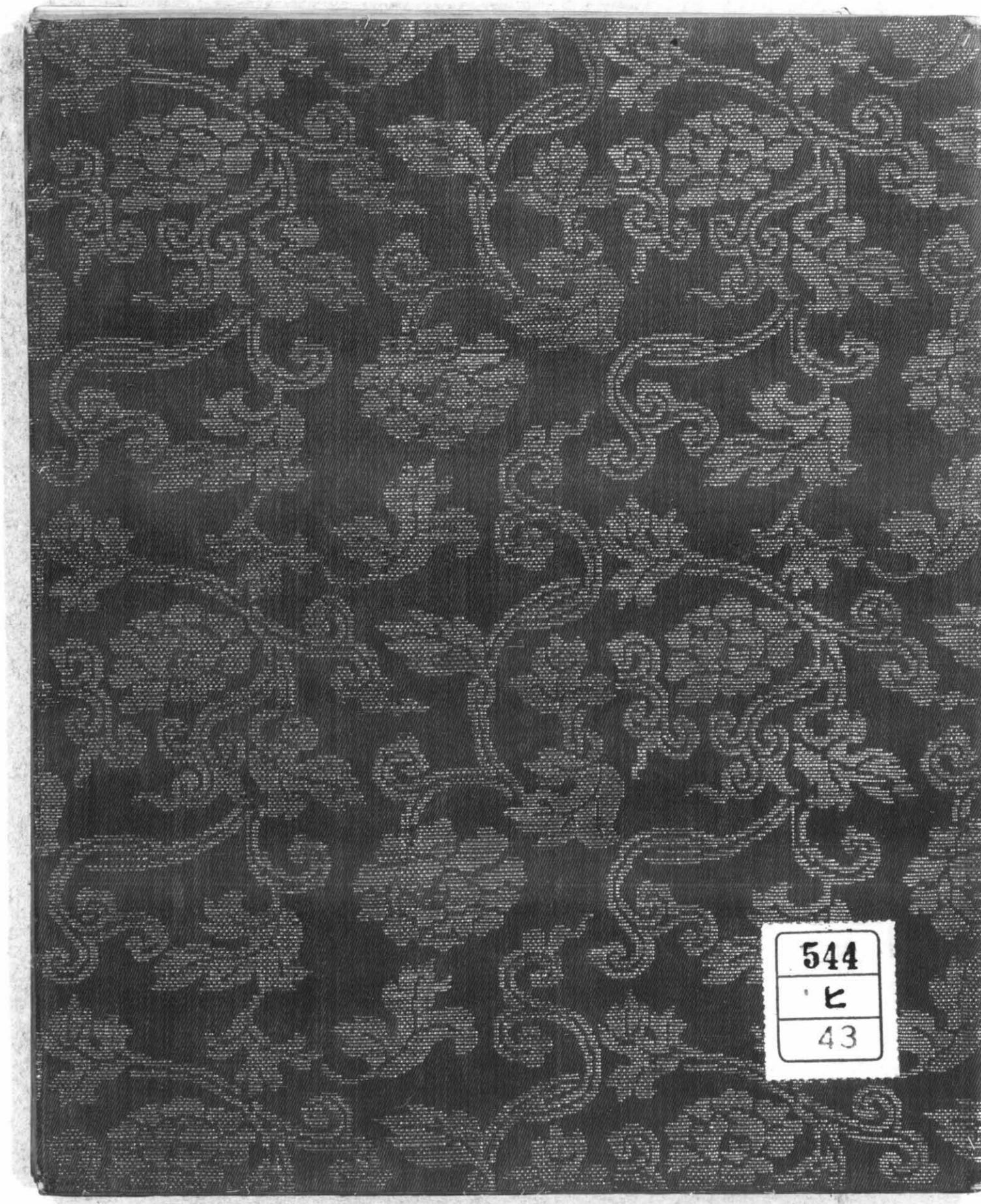
西人一首
并
畫入



0 | 100 | 150 cm
10 |
5 |
SEKISUI JUSHI

0 |-----| 150 cm |-----| 10 |-----| 20 |-----|

SEKISUI JUSHI



544

ヒ

43



百人一首

天智天皇

穢れぬれとすもいかのむすびあ
うとうとすは高ゆるとけ

持統天皇

まよひやまよひやまよひやまよひ
いもうとすりまよひ

柿本人毛

り引ひくれ毛の毛やま毛毛
すきくすきばいもく毛毛

山邊人

田子はうようりてんじんとさきの
不(ハ)の事(ハ)御(ハ)雪(ハ)か

藤凡人丈

不(ハ)の事(ハ)不(ハ)の事(ハ)不(ハ)

中納言家持

不(ハ)の事(ハ)不(ハ)の事(ハ)不(ハ)

安倍仲九

不(ハ)の事(ハ)不(ハ)の事(ハ)不(ハ)

喜樂法師

不(ハ)の事(ハ)不(ハ)の事(ハ)不(ハ)

小野小町

不(ハ)の事(ハ)不(ハ)の事(ハ)不(ハ)

蟬丸

不(ハ)の事(ハ)不(ハ)の事(ハ)不(ハ)

萬葉集卷之三

卷之三

和田の事はつまらぬと

偏正遍服

あまの事はつまらぬと
わが心はつまらぬと

陽成院

はなはなすをまわるかく

向原左丸

あきらめのまじめをもとよ

光孝天皇

あきらめのまじめをもとよ

中納言行平

あきらめのまじめをもとよ

在原業平

手も下り叶せをすとぬるに

お詫びの事へての事也

藤原敏行物語

すまへにのきよする事もあらひや

せされふしら人よみが

伊勢

稚波さうきよも不^ハれま

元良親王

しのはりよ^ハく

身結^ハくともいふわざ

素性法師

いまとといひうなうす^ハきつま

りあひの月桂冠りくげの絆

大庭康秀

吹^ハきのよ本れそすまき

大に千里

かくもくづくよまくはり

おもむきあはれはるかに

卷之三

وَمِنْهُمْ مَنْ يَرْجُوا
أَنَّا نُحْكِمُ لَهُ مِنْ
عِنْدِنَا وَمِنْهُمْ مَنْ
يَرْجُوا أَنَّا نُؤْخِذَ
مِنْهُمْ مِنْ عِصَمِ
أَيْمَانِهِمْ فَإِنَّا
نَحْنُ أَعْلَمُ بِمَا
يَصْنَعُونَ

三僚石火

余之不復能久矣。故其後所作，多不復存。惟有此卷，可以見其筆意。

實情二

いふてゐるのをうし

宋少翁畫譜

تَعْلِمُونَ مَنْ يَرِيدُ
أَنْ يَعْلَمَ وَمَنْ يَرِيدُ
أَنْ يَعْلَمَ مَا يَرِيدُ

源流子物語

此卷之書皆是其子
王羲之所寫

几河門鷗桓

おとこはいふとひきだす。おとこ
のうゑの

金生鬼斧

江のうへかくまわら
別

あつまつとてよしのまつ

頂上是則

りほくすとよしのまつ

とく跡はく小不いるたゞ

春遊列樹

山と小とくとよしのまつ

とくとくとよしのまつ

化友則

久とくとよしのまつ

とくとくとよしのまつ

摩原與風

とくとくとよしのまつ

化貫之

人とくとよしのまつとよしのまつ

とくとくとよしのまつ

清原源養父

とくとくとよしのまつ

とくとくとよしのまつ

大屋朝康

さくあ

秋師

けむりをもとむかへまわづくらる

右近

ま身にほりとゆき
人のいづらもとくとよ

香蘭等

あまくわの小跡そのもの
りゆうすがゆの人々し

平素盛

さのすいりよつうじゆくま

生老見

主とよみよはよみよみらす
いふれあわざしむ

清原元輔

せんめりくくよひくはせりけ

種中御言教考

じいそのしりくを説くとくまく

じはまのめくとくまく

中納言朝光

人をもて方なし恨む

蘇徳公

うれしき事人をもてかゆ
えりつづきうめく

萬利好忠

此戸はるか不景いに付す
むきとよみをよしむらの頃

惠慶法師

廻りてましむる宿の如ひ
人ふるひぬ能うさうす

源宣之

金持のまゝうきしのをのむ
手口と物はまじうけ

大伴範宣船

このまゝうきぬくものよひと
いふもがくとあはれむ

鷹原義孝

君のうけいづりからん

藤原實方朝之

藤原實方朝
すゑのよしむらさと

卷之三

國朝之時，有王生者，家世富，好學。其子某，不識書，不知讀。某嘗入學，先生見其子，笑曰：「汝不識書，不知讀，何學也？」某答曰：「某家富，故好學。」先生曰：「汝家富，故好學，汝不識書，不知讀，何學也？」

右大將軍

之子也。物之生焉。

儀同三司母

大約有八枝

وَمَنْ يُعْلِمُ
أَعْلَمُ بِهِمْ

承東式

いよしきに
ひかへり
わざわざ
わざわざ

葉式歌

うすりしとくやうとくまよ

えくわくとくわくわくわく

大威三位

あゆみいの乃くまくまく

くくくくくくくくくくく

赤深衛門

くくくくくくくくくくく

小式脇内侍

くくくくくくくくくくく

まくまくとくとくとくとく

伴勢太輔

いきいきのうれらやめくくら

清サ御書

夜はうくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

石原丈丈道雅

うくうくうくうくうく

うくうくうくうくうく

雄安郡吉定縣

あきうけにあれもさうきく小
いづかなるすくわくま

相稱

しきたまひをりり物絆

亦大偏正行尊

しのむるはての重み

周防内侍

まの夜のむよらまうまくはん

三條院

まくらよせりとみよこす

能因法師

いくつこじわらひもん

良運法師

まくらよせりとみよこす

いはれども、總力は、

大納言經信

ゆきしとて、れいを、禁じよとす
あづまの秋を、下す

肇に親王家化伊

おこなまされまの、おこすには

おこなまの、おこすには

本傳御書道序

かほの、おこすには、おこすには
かほの、おこすには、おこすには

源俊頼物語

うそふる人情うちれじだう
うそふる人情うちれじだう

藤原基俊

笑ひに、おこすには、おこすには
あづまの、秋を、いねす

法性寺通前國同太政官

おこすには、おこすには、おこすには
おこすには、おこすには、おこすには

崇徳院

御城をやといひにあつたるまほの
とすゑよ。りんとおれり

源兼昌

うらへぬくよもよきわらふ
いよがはよもよきわらふ

左京大支頭浦

秋をすよしのきのきのきの
といつるのれのれのやく

待順門院班

うつしれすよしおとと黒の

徳大寺右大臣

うじきよとさくわうせうせ
りもれのれのれのれ

道因法師

うじきよとさくわうせうせ
うさくわうせうせうせ

あれうねうねうねうね
くまのうねうねうねうね

皇太后實大支後成

藤原清輔

キスハシ、みのりやさりし
トヨイモミキ

後惠法師

夜をしまひて、あああああ
りやれしまひて、まくまくま

西行法師

す、す、す、す、す、す、す、す、
す、す、す、す、す、す、す、す、

東蓮法師

し、し、し、し、し、し、し、し、
か、か、か、か、か、か、か、か、

皇嘉門院別當

稚波にわざとよひて、ひよひ
うねうねうねうねうねうね

式子内親王

か、か、か、か、か、か、か、か、
た、た、た、た、た、た、た、た、

殿富門院大輔

き、き、き、き、き、き、き、き、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ぬまよのとひよ

後醍醐天皇太政大臣

まちくとすやまと夜のさしゆ
こうじへまいとせん

二院院譲改

もじりとまかひよの伸れらる
人ふるそくまむり

鎌倉石大臣

をれすのはつねむれりまわ
りまく小舟のけうる

春誠雅綱

えみれひまじまく小夜不^レる
あめくはまく

東大僧正慈源

れうくかくくすくもく小夜不^レる
うめくはまく

入道前太政大臣

れうくまくのくはくまく
ゆくねくまく

權中卿吉定家

とる人材より多くは地盤が少く
原やさくらの立地に困る

後二位家隆

とくとくすく小川の下を走る
川の水芭蕉の歌詞によると

後鳥羽院

人毛行（人毛うきよ）りもさく
とけむり整（とけむりせい）む物（もの）も

順徳院

とくとく不（ふ）死（し）地（じ）のまゝ
とくとく不（ふ）死（し）地（じ）のまゝ

右號仙

龙

柿本人允

アラシノハリノヒコノシテ
カマツチノタチモアリ

右

紀貫之

アラシノハリノヒコノシテ
カマツチノタチモアリ

右

丸河内躬恒

アラシノハリノヒコノシテ
カマツチノタチモアリ

アラシノハリノヒコノシテ
カマツチノタチモアリ

右

伊勢

左
中納言家持
のばねる人書
二
三
四
五
六
七
八
九
十

中華書局影印

アラタニシタリ

七

山邊赤

右
雨
急
行
之
事
有
多
少
在
原
業
平
物
店

卷之三

也
不
可
以
不
知
道
其
之
所
在
也
不
可
以
不
知
道
其
之
所
在

儒正道脈

惠子與莊子同游於濠上。惠子曰：「鯉魚游於濠中，子能見之乎？」莊子曰：「吾儼然望其背也。」惠子曰：「子固非魚也，子之不知魚之樂，亦猶人之不知魚之樂也。」

素性法師

王氏之子也。其子曰子雲。字長卿。少好辭賦。與叔父平子、仲子同游京師。時成帝好辭賦。子雲作《長安賦》。上大說。擢爲中郎將。數年。子雲以病免歸。家富。常有車馬。子雲嘗作賦。自比於子雲。人問其故。子雲曰。昔人謂張良比之蕭何。豈不美哉。

مُهَاجِرٌ مُهَاجِرٌ

五

仇友則

尼

徳丸大丈

まくらのまくらをもとめぬ夜ます。小
れうつりしよにゆきす。

右

小野小町

とよかくうきよのとせん竹
ひよのちよ説此處すれども

左

中納言兼輔

人をもやれこくと廻るにも
こはれうら小ましねら外

右

中納言朝忠

いはれくすきよと廻らばいのねま
く

右

權中納言載忠

身をもよとてくられ年不しく
けあよきじといとぬをまつ

右

藤原高光

くわくと廻るもかを力かり小
くわくとすうむけ

右

源公忠翁

左
壬生志农

右
新宿女柳

左
大曾禰頤基物語

右
源宣之

左
藤原敏行物語

右
源宗千鶴子

左
源宗千鶴子

右

源信明鷗

主ひさはれりつうよりと
よしのわせ君之門也

右

藤原清正

御のひよそらけの跡の皆小松
ひすやか代へまくらゆ

右

源順

氷れ花色の月を待て

右

藤原與風

此處東洋にうるすすめのまゝ

右

清原元浦

秋の跡もまづかと不思議に

左

坂上是則

あづまの松の木にまづ

左

真原元真

阿波の山の木も和室に

まことに御心を察する事多矣

右 小大義

あらゆる事の如きも皆爲す所
ある事無事に起りて居り申す

右 藤原仲文

之に實れ即ち其の妙が此に
在せり又文才も其の如く
大本筋然直物在

かくとすとまことに私ひうる事無事
さうにひきよしむけ度ノ事

右 生忠見

いはゞよきて故にし、其の如き

古 平家威

れども彼の如き不思議

右 中務

秋をれ不思議も何より
たゞの葉すらも

女房歌仙

危

小野小町

いとくさむれども
夜のうきはくすまひ

右

式子内親王

いまとひととくく人よけ
みゆくかはくゆく

右

伊勢

わし川とくら木のあら

右

宿題

支那やいにしへの時代の物語

日本ではまだ見つかってない

右

中華

雨の日はお出でにならぬかとおもふ

うつしのうの御子さうをうながす

右

國防内侍

おまきの所へお銀行さん持

て官女師

右

ねむるよの月はおもむく

花の香りはおもむく

右

後感子

うらみの花はおもむく

かのじゆきの月はおもむく

右

右近

此の月はおもむく月日はおもむく

やいにいぬまへるに年

右

待賢門院姫門

おまきの所へおもむく

おもむく

右 五院院内事

左 在庭大門通綱母

右 宜秋門院母後

左 五院院母後

左 馬内侍

右 嘉陽院越前

右 赤深衛門

右 二藤院繕改

右 五院院母後

左 須家式永

よもにのふはらひとて
うすすけらるり

右

小侍臣

ひきゆきぬすすめか
まうけの人にありと

右

女藏人丸遊

よもよもかの立つて
よしよしよしよ

右

後鳥羽院下師

よしよしよしよし
よしよしよしよ

右

東式部

う人のう人のう
う人のう人のう

右

辨財侍

うあうあうあう
うあうあうあう

左

小式部内侍

うしうしうしう
うしうしうしう

うしうしうしう

右

サ情内侍

まきとゆきとすまのとおりよ
まくはしのりうりうり

左

伴勢大師

まきとゆきとすまのとおりよ
まくはしのりうりうり

左

殿富院大師

まきとゆきとすまのとおりよ
まくはしのりうりうり

左

清妙警

まきとゆきとすまのとおりよ
まくはしのりうりうり

左

帝門院少宰相

まきとゆきとすまのとおりよ
まくはしのりうりうり

左

大貳三位

まきとゆきとすまのとおりよ
まくはしのりうりうり

左

八條院高倉

まきとゆきとすまのとおりよ
まくはしのりうりうり

門より出るれいのむを多

右

高門侍

りうちわのあと風アシタカをもと
よ葉ハナのうへりわしらし

右

後嵯峨院中御吉典侍

うきはねく人ヒトを笑ハラハラし
うきはねの世エダもつすけ

右

一吉化仔

お高タカききつ有リぬがく秋ツカ月ツキ
えりそりのまづなづ

右

式乾門院大輔中園

うきはねくかじりてしり
うきはねくかじりてしり

右

相模

うきはねくかじりてしり
うきはねくかじりてしり

右

深壁門院少將

うきはねくかじりてしり
うきはねくかじりてしり

天保二年
暮春上旬書之

右史清原定鑑

九州大學圖書印

